（日刊）月曜日休刊 明治四十一年十一月十九日（木曜日） 京城新聞 第百十四號

京城新聞

●鴨綠江の木材

堀田技師の談

△鴨綠江の伐木數量 鴨綠江の上流より伐出す木材は三ヶ年約百三十萬連（一連は約十立方尺）其樹種は支那人が紅杉と稱する日本の五葉松と白松と稱する日本のモミ、トウヒ、シラベ類の多數を占め何れも角材として鴨綠江を流下し來るものなり而して目下安東縣に於ける各材種一連の平均單價は二圓五十錢內外なるべきを以て一ヶ年の產額は之を二百二十萬圓位と見積れば蓋し大差なかるべし

△日淸相互の圓滑 淸國側の理事長胡宗瀛は先年東京に留學し青山なる東京農學校を卒業したる人にて能く日本語を解するを以て會計の設立に關する萬般の協議は極めて迅速に且圓滑に進行せるのみならず淸國側の人々は一般に能く日本語を解するもの多かりし日本側には支那語を解するもの甚だ少なかりしより總て日本語にて協議處辨 [illegible] 淸國合同事業と云ふことが是までに前例なき事丈に採木公司の役員及其他の關係者が常に一堂に會して會食歡談するの光景は目擊者をして坐に一種の快感を起さしむ

△技術的思想に就ては淸國側は到底日本側に及ばず淸國側官憲は鴨綠江の木材に就てさへ深く調査したることなく年々百三十萬連の木材が淸國の何れの方面に消用せらるゝかさへ知らざる位なるに引替へ日本側にては鴨綠江材は言ふ迄もなく淸國各地に於て毎歲消費さるゝ一千百餘萬圓の日本材及米國オレゴン、パイン材並に南淸滿州產木材等が各市場に於て競爭販賣せられつゝある狀況より其優劣比較等に至るまで詳細に之を調査し居れるが故に淸國側は追に一言の言議をも挾むの餘地なく技術的事務に就ては全く日本側に依賴し居れる模樣なり

△結氷期 鴨綠江は毎年十一月下旬には全く結氷し其上を通行するに至る位にて其上流は約二三十日間も早く結氷するの例なるを以て中旬に至れば木材は全く流下し來らず從て採木公司は來年五月迄は全く內務に從事するを以て橘口及胡宗瀛の兩理事長は本月始めより先づ奉天に行き次に大連、天津、北京を經て漢口に出で上海を經て海路日本に來る筈にて多分十二月中旬には東京に到着すべし

俳句

冬隣

果樹肥ゆへの灰算段や冬隣　射石
丹波路に薪の市あり冬隣　同
備蓄に交る佛喜や喜栗の冬隣　同
干す草に煮る草に冬隣りけり　同
稍葉に兎寝る夜や冬近し　南六
冬近き村に嫁入噂かな　同
冬隣る野中の家やあらはなり　同
温泉も閉じて榛名雪ある冬隣　せきお
仕切帳鮭の便りも冬隣　同
神祭る事も終りて冬近し　同
萱替ゐる屋根に山居の冬近し　飛天子
冬近し頂き日毎白き雲　同
江南に詩酒の人あり冬隣　同
南天に雀寄り來る冬隣　草四
雜穀を倉に満たして冬隣　同
鐘堂に削木積みあり冬隣　白呂
狐火を里近く見る冬隣　同
里親に頭巾送りぬ冬隣　同

落語　名奉行（二）

桂文枝口演

與「コレ〜今日帯久が戻して來た金はれ前直したか」女房「イエ存じません」與「ハテな、番頭から子供下女まで、此所へ呼んで下され」女房「れ店一統鳥渡れ居間へれ越し」若者「ヘエれ奥から御用ちや」甲「明日の小使が貰へるのぢや、能う氣の注く御主人ぢや、皆なサア行かう〜」乙「私だけ一番先方へ座らして」番「慾張な何んでも貰ふ時は先方へ出たがる早う〜、ヘエ旦那今日はれ草臥」與「ハイ〜是で皆揃ふて居るか」若「ヘエ毎度れ心を付けられまして難有うございます」與「今日帯久から百兩金戻つて、此所へ置てあつたが無いのぢや誰か直した者はないか」若「是は遠ふ小使ちや無いれ前知らんか」甲「馬鹿にするな今日は掛取に出て居る左樣いふれ前は」若「知らん[illegible]も知らんか皆知らんかと申し[illegible]下女「百兩なんてれ[illegible]は見た事もございません」與「子供[illegible]ひよか、長松どんや」長「コレそんな無茶いふな我等天保錢一枚取つた事が有れヘンワイ」番頭「コレ〜泣いても宜い定吉儲かに長松が取つた事を見たか」定「イエ見やしまへんケト、彼奴錢遣ひが荒うれまつせ今日かて燒芋八文ガン買ひよつた」與「コレそんな馬鹿な事をいふな」番「旦那申し上げます只今は店にそんな盗み根性のある樣な者はれかげて一人もございませんと心得ます」與「實私も左樣思ふ、フンよめた彼れぢやア、私が惡かつた。彼時直〜に納入たら宜つた、まア〜宜敷い皆なの者氣を取直して酒でも飲んで目出度春を迎へませう」○「サア〜飲んだ飲んだ」慈悲深いれ方でございますで、其儘に捨置きました一夜明けますと帯久の方は百兩をない物にして初買早々から添物出しまして一尺の物買ふても添物があるといふので客足が附かけまして、うれす屋が、うれる屋になりました氣の毒なのは和泉屋の家は是が不吉の附き初めで正月の内に明けて十八歳になりますお三代さんといふ一人娘、評判の容貌好しが病死いたしました、夫婦は手の中の玉を取られたやうに思ひましたが、仕方がない泪の内に野邊の送りをいたしました、其年の三月に細君も病死に成り、又十月に錢鑑といふ素人力士が高津神社の富籤の事から西風の荒い晩に東堀の俵屋の濱へ乞食に云付てさし火をいたしました、和泉屋の眞裏手、此火事を瓦屋町燒と申して大坂では鳥渡名高い火事でございます、南北は廣がりませなんだが東は上本町落付寺まで燒けました此時和泉屋はスハ火事といふなり土藏二所已前有金萬端猛火に包まれ、主人は命から〜で避出しました。ヤレ〜と思ふ間もなく餘りの心配で病氣となりまして養生する家がないといふ始末、茲に前年別家をさして貰ふた和泉屋武兵衞といふ者がありまして是も失敗をして今は日傭取りをして居りますが、忠義な男で是が引取り飯を粥に、のばして十ケ年養なひました、話しといふのは早いもので、高座を扇子でポンと一つ叩くと十年經過仕ます、銀行へ金を入れて如樣な工合に利が付きますと宜敷しいが左樣は參りません」與「なア武兵衞」武「ヘエ何ンでございます」與「私もれ前の厄介で病氣も癒つた、此樣な嬉しい事はないがれ前に氣の毒でならぬ」武「モシ入らぬ氣象はせいでも」與「イヤ〜是は氣象といふちや無い、れ前の身の上立派な商人に成れる男ぢや、私はモウ年六十も過ぎた事故、世に望みはないが、せめての事にれ前だけなりとも和泉屋の暖簾が掛けさせたい。其れに付いて思ひ出したは、帯久ぢや、今は追々繁昌で、わらい身代になつたさうな。」番「旦那彼奴の事を仰しやるな燒殘つのが先方の運の宜いの、れ宅樣のれ得意は悉皆取られました」與「左樣であらう元は十年前[illegible]事がある其が運の初め其時には利を貰ふて無いから私が帯久樣へ行つて幾らか其時の利息と思ふて下されといふたら、ヨモや忌とはいはツしやるまい、其金を資本にしてれ前さん商賣仕てれ呉れ、此まゝ果てるのは惜もんぢや」武「旦那其れは御免被ります、彼奴は人間ぢやござりませぬ」與「イャ〜さうぢやない、此方が正直にさへしたら先方も正直にする、性は善、ドレ行て來ませうと、れ越しに成つて見舞と、其頃帯屋といふものは前の和泉屋より數倍増しての繁昌、澤山な人出入り、與兵衞さん門口さまようて這入り兼て居りますと、店の者が見て、若「コレ〜れ客の邪魔になる、今日は報謝日ぢやない、彼方へ行け」番「何を云ふのぢや、彼人は乞食ぢやない」若「ケレども乞食と見て間違ひありますまい、据からぼろの出て居る着物に、雪駄か下駄か分らんやうな物を引かけ」番「やかましい、彼は三丁目にれ在でになつた、和泉屋與兵衞といふて家と同商賣の御主人ぢや、何も云ふな。モシ〜和泉屋の旦那さん何うぞれ這入り」與「ハイ有難うございます、御主人さんはれ宅ですか」番「ヘエ宅でございます」與「御面倒でございませうが、鳥渡れ願ひがあつて參りましてございますが」番「ハア左樣ですか、其由申しませう、暫時れ待ち」と番頭奥へ參りまして 番「旦那樣申上げます」久「何ンぢや」番「和泉屋の旦那がれ越しでござります」久「いづ、和泉屋とは」番「和泉屋與兵衞さんです」久「ア、那の三丁目に居た和泉屋か」久「ヘエ」番「留守ちやといへ」番「御宅ちやと申しました」久「馬鹿ツ入らぬ事をいふな」番「でも現今れ宅にれ居でのもの、留守ちやとは申されませぬ」久「可なりな風體をして居るか」番「なか〜店の者が乞食と思ふた程です、

廣告

●他人の病毒を感受する狀態（最も親切なる速治療法）

近時花柳病の流行殊に甚しく專門醫の實驗に依れば百人中八十五人餘を算すと云ふ其蔓延する狀態は常に社交の裏面に於て人より人に傳染するものにて痳病、疳瘡、横痃、梅毒等の源因は既に同一なれば何れも同一毒なり〻速斷する人の多きも實際各其病毒を相異にするもの故普通一樣の藥劑にて根治せざるは當前なるべし而も其實地は梅毒痳病の混合傳染に罹る場合極て多く其理由は賣婦が數人の客に接する際其內の甲客に痳病乙客に梅毒あれば丙客は不幸に[illegible]す近來支那輸入の病毒に此種類頗る多しと云ふ痳病は傳染後早く發病し梅毒は潜伏期永き故其發生隨つて遲く而かも發病後一旦消褪して更に他部に顯はれ其他痔が起り毛髮脫落し咽喉痛み聲嗄嘶し心持ち常に鬱憂し顏色惡く働かずとも身体倦怠し手足に力なく讀み書き又は作業手に附かず頭痛あり記臆力減じ或は眼かすみて十分見えぬ事あり自身で何病か判らぬ樣になる左れば始め痳病の時に專門醫の診察を受くるも凡そ診斷は現病の徵候に因り判明するもの故其痳病のみは確認するも混合傳染にて未發の梅毒等は診斷上發見するに由なきものなれば本病の人は多くの場合に於て必ず混合傳染を忘るべからず是れ治療上の必要條件なり凡そ梅毒痳病を根本的に治療するには必ず唯一丸を用ふべし唯一丸は獨逸の大家ホフマン博士（最近梅毒の病源体を發見して醫學界を聳動せしめたる偉人）の處方に則り其主藥（原料）は現世に於ける唯一の驅毒藥として醫學者に最も尊重せらるゝ藥劑を以て成り立ち即ち梅毒藥と痳病藥とを治療學上合理的に配合したれば其病症に從り輕きは一二週より重も一ヶ月程にて拭ふが如く根治す此病に對し幾多妙藥ありと雖も其病理原因等を精密に調査し最も親切に調劑したる唯一丸の如きは世上未だ其例を見ず之れ本病患者の信賴するに足る所なり故に生來多毒質の人は速に唯一丸を試よ面白き程効あるべし又痳病の人が之を妻妾に傳染せし場合婦人の方は現に感染し乍らも刺戟症狀のない爲めに何の氣もなく全く自分は健康の樣に思て居るも是が即ち潜伏する婦人痳病（せうかち）にて同衾の爲めに再發すると最も多き事實なれば相互に治療肝要なるべし

藥價●三日分四十錢●七日分八十錢●十四日分一圓五十錢●三十日分三圓●內國遞送無料

本病患者の爲に其病理養生及治療を懇切に詳述したる冊子無代施本逓料三錢要す

發行所 東京市本郷區湯島天神表通中坂上 藥劑師 中西莊吉

仁川本町 新井藥房（電話一六〇番）

代理店 京城本町 新井藥房支店（電話四七八番）

京城新聞

稅關長會議

關稅行政は最も文明的の知識を要すると共に最も公平なる取扱を爲さゞる可らず、故に未開國に於ては自ら之を處理すること能はず、之が爲に先進國たる歐米人を傭聘して其局に當らしむるの國少しとせず、清國の如きも英人ロバート、ハート氏を聘して總稅務司となし關稅行政の任に當らしめたり韓國の如きも前總稅司ブラオン氏の爲に關稅行政の基礎は造られたり、氏が文明的の智識と公平無私なる態度を以て能く貿易の發達及諸般の設備に盡くされたるは何人も知る所なり、

頃者稅關長會議開會せられたるに際し、余輩は諸君に對して注意を促すを禁ずる能はず、永濱總長の閉會の演辭は精細にして能く盡くされたるを以て今更に余輩が之に蛇足を加ふる要なからんも、專門以外の批評も時に取りては些少の益なしとせんや、保護協約以來關稅行政の權は外國人の手を離れて本邦人則ち諸君の手に歸したり、爾來熱心なる諸君の努力に依りて長足の改善をなしたることは何人も之を認識する所なり、元來關稅行政の目的たるや無論國家の收入を計るものなりと雖も一方には港灣の改築交通の便を計りて貿易の發達をなさしむるに於て世界共通的の意味をも含有するものなり、其職務に於て公平にして注意周到なるを要する上に世界的智識に富まざるべからず、其任務や頗る重し、余輩は今茲に三個の問題を掲げて諸君の參照に供せんとす一は輸入貨物に就て表面上余りに公平を持せんとするが爲に却て其實不公平に陷入の觀を呈せざる乎假令ば烟草の輸入に對して日本品ならば該品の元價を確むるにも直に專賣局に向て照會すれば明白となるも、外國品に對しては之を取調ぶるの便を有せざるが爲に駐在領事の手によりて取調ぶるのみなれば容易に信を得られず、若し關稅規定によりて其國人を證人に立てゝ評價し以て稅關に買上る場合に就て甚だしき不都合を感ずるなり、實際不當の元價なりと見るも輸出港に於ける實際の價格判明せざれば斷然たる所置を行ふ能はざるなり、從て日本品と外國品とに對する徵稅に知らずして公平を欠くに至らんか、近來邦人貿易者間に此不平ある最もなりと雖も、之れ故意になすに非ずして余儀なく來る結果なれば余輩は大に之を諒とせざる可らず、要するに斯る結果を見るは輸出港の原價を精調せざるより起るの問題たり、獨り之れ烟草のみに拘らずシーチング其他に於ても然り之が爲に日本品は自然に市場に壓せらるゝ現象を生ずるに至る、二は米穀及牛皮の輸出稅を免除するの可否なり、之は日韓關稅同盟の締結せらるゝ曉に於ては自然に解決を見るならんと雖未だ之が締結せられざるときに於ては之を其儘に爲し置くべきか思ふに米穀及牛皮の輸出稅廢止は相互の爲に利益なるべし、此廢止は日韓貿易の發達に於て最も利益あるべき問題たるは今更に詳はしく述るの要を見ず、諸君に於ても必ずや之を是なりとせらるべけんか、果して然りとせば之が廢止を主張せらるべし、三は關稅條約の改正なり之れ帝國政府が其衝に當りて爲すべきことなれば現在に於ては當時の條約の儘なるもの二三あるべし、之等は諸君が關稅行政施行上に多大の不便を感ずる所ならん乎、要するに此三箇の問題は韓國貿易の發展に於て多大の影響あるべき事なれば諸君は之に就き大に研究せられて關稅行政に於て一生面を拓かるゝ事を期せられんことを希望するなり、余輩局外の俗論と雖も之を容るゝに吝ならざるべきを信ずるなり

東京電報

▲嫌疑者捕はる　大醫院の御醫四名毒を施りたるの嫌疑にて四名捕はる（北京發東京經由十八日午後發）

▲駐剳軍撤退せず　支那駐屯日本軍は大部分撤退の筈なりしも今般の事變にて當分駐屯する事となれり（東京十八日午後發）

雜報

●韓國の治外法權　韓國治外法權撤去の事は伊藤統監最後の事業なるやに傳へらるゝも嚢に米國が工業所有權に關する裁判權の一部を我理事廳に一任したる際我政府が英佛兩國に對して同樣の申込をなしたるに兩國は拒絶せしとあり裁判權一部の治外制度を撤去して韓國に於ける我法權に委することすら一朝にして行はれ難き形勢なれば韓國の裁判制度を改良し純然たる法權の回復を企つるは年月の問題にして統監が最後の事業としては日暮れ途遠しの感なきにあらざるより統監は我外交の手腕により韓國に於ける諸外國の治外法權撤去を企てたれども列國これに應ぜざるより今は韓國の現制度を改良し多年の後法權の回復を求むるの外なかるべしといふ

●清國居留民と大喪　清國總領事不在に付同國兩陛下崩御に關しては未だ公式の發表なきも同領事は今夜皈任に付在東京の公使とも打合せたる事もあるべく大喪に關する儀式服喪の心得等は明日告示せられ清國居留民は一般に休業すべしと云ふ

●長谷川大將出發　長谷川軍司令官は豫報の通り本日午前九時五十分南大門發列車にて大藤副官を隨へ歸朝の途に就きたるが同驛には曾禰副統監以下各參與官各部大臣其他多數の內外文武官の見送りありたり

●清國總領事の歸任　東京に出張中なりし馬清國總領事は今夜八時四十分着列車にて歸任す

●統監府其他の吊意　清國皇帝西太后崩御に對し弔意を表する爲め統監府を始め各國領事館も三日間半旗を揭ぐることゝなり統監府は十八日より實施せり

●愛國婦人會　愛國婦人會韓國本部役員會、救護部員會は昨一七日午後三時總務長官々舍に於て同時開會せられ兒玉、三浦、古谷、香坂、小松、中村、道家、巨智部、黑田、李氏、佐々木、宮口、峯尾、朴氏、國分、三宅、頭本等の各婦人出席兒玉相談役より本部規則改正、來春總會開催討伐隊慰問其他二三の報告ありたる後藤田軍醫部長の海外に於ける內地婦人の育兒衞生注意に關する有益なる講話ありて散會したるは午後五時なりき

▲當番幹事　同會當番幹事として軍隊慰問等に關し盡力したる頭本、松井、國分、道家、峯尾の各夫人は去十月迄にて滿期に付來年一月迄左の夫人替代當番幹事となれり

永濱靜子　黑田琴子　淺見八重子
小松壽子　木島駒子

▲釜山大邱委員部演藝會　愛國婦人會釜山、大邱委員部にては會務擴張基金幼稚園臨時費募集の主意にて釜山總會の翌廿二三兩日、大邱は廿五六兩日何れも劇場に於て開催する由なるが兩委員部共役員夫人令孃有志のみにて演藝番組を仕組み中にも大邱演藝會活人畫中乳姉妹松平老侯には久水理事官君江には久水令孃洋裝にて之を扮する等頗る振つたものなりと

▲大橋主幹出張　愛國婦人會釜山總會演藝會大邱演藝會には本部より大橋主幹出張することゝなり本部長親詞韓太子殿下其他嶄新なる活動寫眞携帶の筈なりと

▲慰問品と韓人警官　愛國婦人會今回の慰問に對し忠清北道今村警察部長は韓人巡查に對しても吾人同樣に慰問せられたる博愛の旨趣に感激し慰問品交付に際し本會の旨趣等反覆之を說明したるに韓人巡查等の感其面に溢れ日本夫人が日韓人を同一視したる今回の美擧は非常なる好影響を與へたる旨特に謝意を表し來れり

●清國革命黨の檄　在東京清國革命黨が其機關雜誌民報の發賣頒布を停止せられたるに對し黨員の憤怨狀態は既記の如し其後彼等は益々自國政府及び日本政府の處置を痛罵し陰に何等かの報復手段を謀りつゝあるが如し最近彼等が發したる檄文をみるに其過激言暴論は笑ふに堪へたりと雖も其機關雜誌を失ひたる私憤は洵に憐むべし現今清帝崩御の傳說ある折柄彼等が兼て蛇蝎視せる清廷內の凶變に乘じ其活動の一步を進むべきは世の既に推知する處たり左に該印刷物の要點を揭ぐ

日本の對韓手段は人道にあらず彼れ伊藤は韓の健兒を殺す者と稱すれども日人雖は其の處置の緩慢を恨む東洋拓殖會社の如きは蓋し是れ韓の一草一木までも沒收し盡さんとするものなり嗟々臺灣の漢族は既に亡び子孫悉く日本の奴隸となり日露の戰後日本は滿洲を占領して撫南下し窺に福建浙江を覬覦せし者今は更に直隸山東河南を蠶食せんと思ふ此皆四億萬同胞の遠仇近恨なり日人は對韓對臺灣の手段を以て吾が留學生界を處置せんとす亡國の根絶に夫れ復す可からざるか吾黨は未だ遂に東相を蕪郊に驅る能はざりしも民族の大義を提唱せる結果は吳烈士の投彈となり徐義士の狙擊と爲れり而かも天漢族に酢せずして東の巢穴尙未だ推倒するに至らず彼倭奴亦機に乘じて釁を起し間島事件葛藤を重ぬる既に年餘なり東胡が倭奴に讓らざるは唯だ吾同胞の爭持するを以てのみ即ち革命黨員宋敎仁の如き書を著して彊土を力持す彼豈に東胡に忠なる者ならん蓋し山河は漢族の山河土地は漢族の土地なり唯だ未だ恢復せざるのみ豪傑たる倭奴距んぞ能く指を染むるを得んや然るに吉紹儀截廚東に來り吾民權を封して間島と交換せんとす唐紹に言ふて曰く若し間島及新法線を交付せられんか民法及各省の雜誌は凡て之を押收し留學界をして僉字牛語も貴國人を猖獗せしめず倭奴が吾民報及び四川雜誌を封せるは是れ米清同盟を妨げんとするの手段たりと云ふは大なる誤なり近頃民報同人相識り米國に移りて日報及雜誌を刊行し排滿排日を以て主義とし倭賈をして長に支那より排し無政府黨をして倭島に蔓延せしめんとす云々

●捕鯨業合同の必要　現在全國にれける諸威式捕鯨會社及び捕鯨船數は

東洋漁業	五隻	長崎捕鯨	五隻
大日本捕鯨	四隻	帝國水產	三隻
內外水產	二隻	太平洋漁業	二隻
紀伊水產	一隻	東海漁業	一隻
長門捕鯨	一隻	土佐捕鯨	一隻
大東漁業	二隻	丸三製材	一隻

にして分立營業の結果

第一は各社競爭の結果捕獲率の漸減すると

第二は濫獲の結果免かる能はざる貢上漸減するの不利益あれば此際寧ろ大合同をなさんとの說を有するものありて既に其步を進めつゝあり而して合同後の新會社は其經營を如何にすべきやは當業有識者間には已に自ら意見の一致するものある次第なるが

一、現在諸威捕鯨船總數廿八隻の中約十八隻を當分捕鯨船として運用すると

二、殘餘の約十隻をば休漁若くは繫船とし或はトローラーに用ゐ或は一般漁業に從事せしめ或は他の漁船に改造するの方針を採ると

となるべく此營業方法によりて少くとも約八十萬圓の利益を擧ぐるを得べしと

●迎日灣荒蕪地經營　迎日灣の陸上迎日にれいて荒蕪地經營に從事せる彌昌洋行（鳥取縣人大塚昌次郎、兵庫縣人岸上彌作兩氏の合資十万圓）が本春來經營に着手したる買收畑地は九十三町步にて荒蕪地は明後四十三年迄に約三百町步を開墾するの計畫を立て目下約三十町步の開墾を了れり、開墾の狀況を聞くに米國製開墾鍬二頭曳二臺、三頭曳三台を使用しつゝあれど、最初より日本馬を使用せしに成績面白からざるを以て昨今韓牛を試用中なるが成績却つて良好なりといふ、開墾地の除草には附近の韓婦人を使役し彼等は一日二三十錢を以て喜んで從業しつゝあり、開墾後の目的は軍隊用牧草の栽培にありて熟畑には大豆、蔬菜類を栽培中なるが牧草の種子は北海道より之れを輸入し一石十八圓に値ひせし由彌昌洋行の開墾を開始するや從來放任して顧みざりし韓人は競うて開墾に着手したるを以て同行は之を獎勵して開墾地を買收しつゝあり、同行の事業が成功するや否やは疑問に屬するも牧草栽培の一事は確に荒蕪地利用の方法に適ひ彼の熟田を得んとするに比して失敗の憂ひ尠なきを信ずるに難からず、同行は尙副業として精米業を營み石油發動機を据付けエンゲルス式精米器を以て一日十七八石を精米し居り

●副觀察使見合　各道に副觀察使を置くの說ある事は曾て報道し置きたるが經費の都合其の他にて當分は現官制の儘となし置く事となれりと云ふ

●經濟協會歡迎會　韓國經濟協會は大倉喜八郎氏の歡迎を兼ね本月例會を來る廿四日午后六時日本人俱樂部に於て開催する由なり、因に大倉氏に緣故を有する人は會員外と雖も出席隨意なりとの事なり

●吉長線借款協商　吉長鐵道屬約は十二日北京にれいて調印を了したるも右屬約に規定せる借款に關する細目は一兩日中に奉天にれいて國澤滿鐵理事と清國委員との間に協定する筈なり

●滿洲の製糖會社計畫　東清鐵道蒙古驛に於て今湖鹽斯德商人ツンメルマン及び清國商人の合資を以て一製糖會社を設立するに決したりと

●赤十字社員年金未納　日本赤十字社仁川委員部にては同地在留の社員中會金未納なる者に付て之れが即納を催告しつゝある由なるが未納數年に亘り一時に納入し難き事情ある向きも尠からざるを豫想し適宜納付の相談に應ずべしと

●稅關新廳舍の設計　目下仁川建築所出張に於いては同稅關新廳舍の設計を急ぎ居たるが其の設備の詳細を聞き得たれば左に報せん其の面積は約一万八千坪にして其延長約五百間の間に物揚又は護岸石垣を築造し岸頭には貨物昇降用の起重機を設け棧橋は鐵製にて長六十間のもの一基木製にて長四十間のもの四基を建造し倘構內には道路下水點燈の設備を完し建坪數約二千二百坪に及ぶ又外港の島嶼には海港檢疫所を置き檢疫事務所、消毒所及び患者收容所等を築造するの企を以て漸次に其の業を進めつゝありと雖是等は唯だ現下に於ける須急の事業として着手せられんとしつゝあるものにして倘將來商港としての發達上大規模の築港を計畫するの必要は一般の認むる所なるが其の施設設計に關しては種々意見を存し未だ之れを世間に照會し得るの時期に達せざるを以て目下着手せんとする規定工事の種類及坪數を上ぐれば左の如し

埋築地	一、九七六坪
物置場護岸石垣	三八五間
棧橋	一二六間
上屋	一、二六〇坪
倉庫	九六六坪
諸廳舍	二九〇坪
官舍	一〇棟
起重機	五基
檢疫設備	二九一坪

●世界棉花の消費額　在英國紡績業者聯合協會は本年八月三十一日迄の棉花消費額及び紡業者の貯藏額を發表せり該表によれば世界同盟紡績國二十二國を合せたる運轉總錘數一億一千百二十一万七千八百八十三錘にして實際の存在錘數は一億二千八百九十二万三千六百五十九錘と註せらる而して此の大差ある所以は主として印度、巴西、露西亞三國の報告未到着分九百十九萬六千七百十本を計算に入れずして前年通の儘にせるに因る次に棉花の消費高は昨年は千五百七十七万九千五百三十七俵にして本年は千四百九十萬九千百九十三俵なりき之に實際要する錘數は昨年は一億一千四百万本にして本年は一億一萬有餘本なり而して其の貯藏額は昨年八月三十一日の三百三十三萬四千俵に比し本年は二百七十二萬八千俵にして本年度錘數の增加千万本を計算に入るゝときは貯藏額の比例は昨年に比し三割三分三厘餘の減少に當る

●新聞其他活版用鉛版發送注意　新聞其他活版用鉛版類は免稅品なるにも往々課稅せらるゝ事あり右稅關に於て郵便局の申告に依り一々開封檢查に及ずして決定する故に間違を生ずるを以て發送者は大に注意すべき事なりと云ふ

●藥品施與　仁川警察署にては此程管內各駐在所に救急藥品數種を配布し貧困なる韓人にして郡守又は面長の證明ある者に施與することゝせるが爾來日倘淺きため其成績如何を知るに由なけれど多分良好なるべし

●京城民團會計主任會議　京城民團役所にては十八日午後三時より四十二年度豫算編成並に會計事務取扱に關する協議會を開けり

●商業會議所月報　仁川商業會議所の月報初號は豫定の如く來る二十五日に發行す可く組合記事雜報に至るまで頗る豐富のものなりと

●東亞煙草祝宴　同會社京城支店長赤間嘉之吉氏は開業二年を祝する爲來る二十一日日本人俱樂部になる宴會を開き官民有志を招待する由なり

●大韓醫院の患者　大韓醫院入院患者は目下男四十七名女二十八名なるが內內科男二十三人女十三人外科男十九人女三人眼科男一女二人耳科男四人女三人婦人科七人なり

●菊池長風氏　東上中なりし同氏は歸路郷里熊本に立寄られ昨夜南大門着にて無事歸城したり

●民長の從軍紀受章　熊谷民長は今回從軍紀章を下賜されたり

●敍任（十七日附）

步兵中尉從七位勳六等　草野正雄
任統監府通譯生七級俸

公人私人

▲中尾丑吉（陸軍會計監督一等主計）　十七日安東縣へ向け出發

近事片々

▲伊藤公　遣清大使として渡清するの說あるが如くして傳はる果して左る事實あるもの乎

▲今回の異變に就ては對清策の態度を改むるの必要あり此際伊公の渡清は大によしと

▲列國の對清政策も茲に一變すべき兆あり少くとも米國及獨逸は茲に聯盟するならん

▲既に滿洲問題に就ても米國國務卿は高平大使に協議ありとの說さへあるに至れり

▲次には獨逸及び英國の活動を見るに至らん膠州灣伯林間の電報や極めて多からん乎

▲列國の行動に對する帝國の態度は如何に出づべき乎此際大隈伯を起す必要なき乎

▲滿州問題に付ては何國と提携してなりとも鮮明なる解決をすべきの氣運に達せり

▲此際帝國が伊藤公なり大隈伯なりを派遣するは最も機宜を得たるものと云ふべし

▲極東問題將來の趨勢は今回の事變によりて略ぼ確定するに至る最重要の機會たり

▲慶親王の勢力隆々たりとの報あるも些と疑なき能はず果して斯る趨勢なるべきか

▲袁世凱毒殺せられたりの風說は或は眞の風說たるべきか袁は斯るウスノロに非ず

▲袁世凱にして毒殺せらるゝ如き事あらば慶親王の勢力隆々も當てにはならぬ事也

▲南清革命黨は之を機會に勃發せんとするの形勢ありど之は當然起るべき事ならん

▲列國の活動と內亂の憂とにより北京は今や黑雲天を蔽ひて淒愴たる光景ならん

▲帝國は滿州問題を解決する前に於て宜しく清國に力を副へて盡す所なかる可らず

▲清國の俠心を清國上下に知らしむるは將さに此機會にあり百年交友の基礎ならん

▲徒に列國の顰に倣ふ可らず飽まで我の義俠を發輝して全清國の安寧を計るべき也

▲斯の如くして帝國の眞意を了解せしむれば滿州問題を解決することも易々たるのみ

▲此大活動をなすには大頭株の政治家を北京に派遣するの必要あり速に實行すべし

▲清帝に殉する爲め皇后自殺の風說は眞に風說たることを祈る之れ美談に非ざれば也

▲醇親王博儀殿下を擁して攝政たるに至ては果して國民の輿望に副ふべきや否や也

▲慶親王が一方に勢力隆々たるさあるに至りては茲に妙な對照を現出せられたる乎

▲米國に於ける對清問題は頗る盛なるものの如し[illegible]

探偵實話 奇縁（三） ひて子

此話は深くもせず、餘は商人と雑談に時を過ごして、自分は知巳の家へ一旦落着き、後、下宿したが、此下宿へも屢々露子は訪ねて來た、眞實兄とも思つて居たらしかつた其内左様一年も居つたらう結局自分と露子の關係が元で江戸ッ子氣性の十九の露子は身の潔白を立てん爲か、遂に東京へ歸つて仕舞つた今出發の間際だとて一寸下宿へ立寄つて如上の話をしたのであつたが是れ[illegible]つた此月自分の義理ある兄が元山と城津の間で乘つてた船の沈沒の爲め行衛不明で。死んだのだらう今以て判らない

銚子の尻を火鉢に離して聴惚れて居た藝妓が此時、靜かに猪口へ酒をついだ菊地は飲んで寒むそうに火鉢を引寄せ

「ねー僕も何んだか嫌に成つた東京へ歸りたかつたよ併し歸れば露子の跡を追ふ樣で面白く無い寧ろ大阪、大阪へ行かう」

斯く果めて露子が去つて五月の後、大阪へ出で同所で三年、斯くて渡韓した譯なのだ此間の露子の消息は少しも知らない圖らず新任局長の令夫人が露子で在るのを其披露の席で知つた次第、斯くて今日が三度目の同じ歴史は君が今同情して呉れる此の境遇だ露子に就ての名古屋以來の經歴は先日或讌で會見して親しく聞いたが今はモウ話す必要も無いだらう只此奇しき運命が何年迄崇るか夫れを思ふと寧ろ結ばれるのを願ふ樣に成る

「何露子の本名、美枝子と謂つたよ小石川の白山で昔は立派な酒屋の娘さ歌澤が得意だつたよアノ情婦があるで承知で惚れた横戀慕、われがれ縮さ」

命じて置いた俥が來たと仲居の知らせを切つ掛けに二人が起つと十時を打つた

「ムヽ荷物は宿の亭主が停車場へ持つて居つてる此儘行こう」

・・・・・・

十二月八日、吹雪の中の停車場は夜の遲きに拘らず人樣々に混雜する二等室の片隅に高麗頭巾の吾妻コート人目を避けて腰掛けたは阪田は知らず菊地顧三の眸は動いた奇しき男女の運命と八日の日とが如何に纏れて尚此先きに怎糸曳くかご菊地と二時間の物語りを阪田は寢床で想像した雪は益々盛んの樣だ（完）

●松葉の愁嘆

これはまたしても昔から誠なしと唄はれた傾城に與からぬ誠があつたといふ一條の物語り今沙汰のまゝをチョックラ摘い摘んで讀み上ぐれば去る頃十三師團に勤務する梶原とかいふ計手殿がまた京城に居りし時分馴染の閨淋しきまゝ或る夜のこと愛新町大桝屋に俥を横付にさせ松葉といふ美形を敵娼に一夜の情を契りたるが松葉は男がキッパリとした素振と氣前の好いのとにゾッコン惚れ込み商賣氣離れてもてなしたるより男も何うやら憎からず思ひッとに一夜の縁が本となりて戀は夫婦約束迄なしたりしが其の後間もなく男は京城を引き揚げて歸還することゝなりたるより女は一方ならず落膽しある夜男に逢つてシミ〲と行末のことをも相談せしに男は女をばさま〲となだめ軍籍にある身の今は如何ともなし難けれど未來は必ず女房にすべき程にて起證誓紙を取り交はし程經て出發することゝなりたりしかば女は停車場迄見送り男の軍刀に取り縋り請が附[illegible]沈みたるも束の間無情の汽車は男を乘せて東の彼方に消え失せたるより女は四邊をも憚からず聲を曇らしてシク〲と泣き出せしが漸く連れのものよりの嚙みにより廓に歸りたるが今に至るも日々男の寫眞を打ち眺めては碌々客も取らず一室にのみ引き籠り居るといふ

●仲居の窃盗

……衣類二十一點を窃む……

支那領事館裏通り待合業春日の仲居たきん（二七）といふは生れは靜岡縣にて去る頃朝鮮に渡り九月九日春日に雇はれたるものなるが此の女性來手癖惡く親も持て餘し居りし程なるが軈て程經てキンは持前の病ひ起りしものか同月二十九日箪笥の中に仕舞ひありたる主家の衣類二十一點並びに掛鏡一個を窃取し豫て懇意なる明治町一丁目のペンキ屋某方に赴き臟品を預け何喰はぬ顏して日を過ごし居りしが餘りに一家の中の評判が騷がしく果ては警察沙汰となりたるより流石圖々しきキンも何となく居りにくゝなり十月十七日暇を取りて南大門通り櫻屋旅館に投宿せしも差し當り宿錢に窮せし故前記のペンキ屋に至りて豫て預け置きける衣類を取り戻し其の中の女帶一筋と新れ召縮緬一枚を相生町三十三番地池田キヨ方へ十圓にて入質し並びに友禪縮緬女襦袢一枚其の他二三品を櫻井町四十番地福田家方に十圓にて入質し其の金を以て宿錢を支拂ひ且つ小遣をも拵へ其の後櫻屋旅館を立ち出で〻諸所方々を徘徊し居りしが五六日前南大門通りの紅葉旅館に潜伏し居る處を去る十六日午前八時頃南部警察署の手にて取押へられたり

●女故の窃盗

西部五宮洞三十八統朴震夏の伜周燮（二五）といふは豫てより西大門外料理店岡山樓のハツといふ酌婦を見染め何んとかして一夜の春を買つて見たいと明け暮れ思ひ煩ひ居りしが悲しいことには親がかりの身の哀れさに枕金どころかオールド一ッ買ふ金さへ自由にならざる所より終に淺墓な心を起し去る十六日黃土峴某韓人方の入口に立て掛けありし自轉車一輛を窃取し其の足にて南大門通り待合茶屋内田方に赴き十五圓にて賣り飛ばしやれ思が遂げられる哩と安心し早速右の岡山樓に上りハツを相手に大散財をなし居る所を西部警察署の巡査に嗅付られ其の場より引致されたり

●店員評判記

協同組京城支店主任 渡邊友一氏

氏は殆んど勤勉力行の權化といつても宜い精力絶倫、操守堅確事に當つて熱心身を持する端正而も又仁俠の念に富んで居る、生國は山口縣都濃郡下和村夙に東都に遊びて明治大學を卒業し業成るや折柄の日露戰役を好機とし仁川に渡つたのが明治三十七年[illegible]用達を請負ひ大に利益を博したソレより程經てある事情の爲め郷里に歸り一意將來の雄飛を企劃して居つたが軈て再び仁川に渡り協同組に身を委ねた當時組主立石幹氏は氏の人物と手腕とを見込んで非凡な青年だと賞嘆し寵愛措く能はざる有樣であつたが其の中氏は店務の爲め晝夜の別なく刻苦奮勵せし結果終に立石氏の股肱となり現今に於ては京城支店の主任となつたのである生年三十前途多望の好事務家である

協同組京城支店員 沼口正義氏

氏の前身は學校の教師である三十二年仁川に渡り仁川小學校に教鞭を執つて居つたが中途方針を變更し將來は實業界に身を投じて大に爲すあらんと志すと共に斷然教職を辭して大坂に赴き同地の商業學校に學を修め發奮の苦學首尾能く全科を卒業するや否や新銳の氣と潑剌たる商才を抱いて再び仁川に渡つて來たので三十九年十一月である最初マヅ實業界に身を投ずる手解きとして同地の顯原商會に入り實地の訓練を施し在店一年轉じて協同組に入つたのが昨年の二月である現今の地位は會計主任人と爲り慧敏犀利才略湧くが如くである

協同組京城支店員 佐竹安陸氏

圓滿滑脫渾然として圭角なきが氏の性質である三十七年九月に渡韓し仁川の鐵道管部に入るや忽にして俊邁銳逸の才夙に係りの上官を感嘆せしめた三十八年四月思ふ所あり職を辭し同地の江智屋商店に入り專ら京仁線列車內販賣部の主任として辛辣なる手腕を揮ひ同店の重鎭として貢献する所少なからずであつた任店前後二年轉じて協同組に入つたのが四十年十一月である生れは山口縣昨今能く渡邊氏を援けて店務に鞅掌して居る將來の希望は偉大なる實業家にならんとすることであるそうだ

●小膽者の横着

本町一丁目三十七番戸増本喜三郎方酒井惠三郎（二十）は去る六月九日自分所有の印刷器機外附屬品一切を代價五十圓にて賣渡すべく旭町二丁目七十一番地酒井一郎に約定し其際手附として二十圓を受取りながら又々他人に百七十圓にて賣渡す約束を爲せしが一郎より受取つた二十圓を返へすのが惜しさに世間せまくも京城に居る氣にならず前記の金を懷中にして雲隱れせしが曾て一郎より南部署へ訴出ありしため折柄同人が本月九日再び京城へ舞ひ戻り本町二丁目竹下方に潜伏し居るを南部署の長野刑事がかぎつけて取り押へ昨日檢事局へ送る

●宗旨違ひ

身の病ひを療すが醫者の務め心の患ひを正うするが宗教家の務め餅屋は餅屋酒屋は酒屋と世間自ら分業はあれざさりとて普通一般のものゝ行ふ道を守らず何も男の働きを苟も身は仁術の權化ともいふべき氣高き地位にありながら加へて家には麗々たる妻のあるにも拘はらず今日は新町明日は料亭と內を外なる道樂[illegible]味はまだしても有らうことか有るまいことか日々手下に使ふ看護婦に迄手を出し患者の治療はソッチ除けにして專ら自然主義の研究にのみ之れ日も足らず終に研究の度が過ぎて其の看護婦といふがいつしかポテレン木魚講とはなりしが此のこと誰いふとなく奥方の耳に入り一騷動持ち上り今に悶着中なるがサテ何う始末の附くものやら何れ次回のれ懸みといふ投書一通舞ひ込みたり而して其の醫者の名前は今の所堪忍して置くべしとのことなり

▲新年號附錄▼

追々と新年も近寄つて參りました、例に依つて各新聞雑誌社が新年附錄を調製する爲め之が趣向と意匠とにつき今より苦心を重ねて居りますのは毎年何所も同じことでありますが却説本紙は此の來るべき新年に際して何のやうな附錄を調製して愛讀者諸君の眼を喜ばしめやうかと種々樣々と考案を廻らした末、双子六を添付しやうといふことに決定しました、申す迄もなく、双子六は新年に於ける家庭の娯樂法としては最も趣味に富んで居る面白い遊戲であります、而も之が意匠と趣向とは從來有り振れたる陳腐のものではなく極めて嶄新にして奇拔なものでありますツマリ之が內容を一言に申しますと京城の各商店、銀行、會社、旅館、料理店（個人も含む）等を順々に並べ本社を振り出しとして振り始むのであります、思ふに之れ唯に趣味ある娯樂法たるのみならず一面には京城の案內記とも見るべきものでありませう若しそれ如上の各商店銀行、會社、旅館等に於て一朝之れが双子六中の者となつたならば其の廣告の效能は偉大なるものだらうと思ひます廣告の締切は十二月五日限です

▲新年號附錄▼

●御詮議

去る十三日西部靑坡酒商盧禹目及び同所金召史方の二軒より衣類數點を窃取したる曲者は平安北數義城郡別武村張壽玉（二七）といふは一昨日西部署の巡査に取り押へられたり

●血が出た

昨日午前八時西部盤石坊桃洞居賢權が同所李俊基方の畑の中で落葉を掻き集めて居たのを前記李は之を認め亂暴にも屋の頭部をば血の出る程撲つたので西部署へ引致さる

●[illegible]の狂言

同座今晩の狂言は大倉桃郎作「琵琶歌」にして重なる配役如左

西村禮太（稲葉） 花浦菊枝（堀江） 吉五郎（常磐） 江島齋磨（吉井） 武田貞次（田宮） 武田庄次（松村） 母たつ（福井） 女中れ市（藤原） 小僧長吉（秋岡） アバ熊（櫻木） 西村妻た光（坂本） 荒井三藏（佐藤） 下男權助（島村） 里野（酒井）

●辻屋の福引當籤者

本町辻屋商店にては既報せし如く去る十日開店十五週年福引抽籤を行ひ等級番號を發表せしがサテ一二等の福の神は何人の頭上に降下するやと待ち構へ居りしに昨日に至り其の當籤者は一等（公債證書額面金一百圓）旭町一丁目久瀨田晉二等（同五十圓）村田少將の女中某と決定したり

●獨逸刑法論特價發賣

東京早稻田大學にては今回期を限り標題の如き書籍を特價にて發賣する由同書は刑法學上に於ける實驗學派の泰斗リスト教授の名著を同敎授に親炙せる吾孫子乾兩學士の飜譯にかゝり穗積、富井、梅三博士の評序を冠し獨逸刑法條文を附載したるものにして全二卷一千六百餘頁の大冊にして且つ內容も完全なるものなれば我法曹界の爲めに重要の指針たるべし何れ詳細の事柄は東京牛込早稻田大學出版部に就て問ひ合さるべし

●天氣豫報（自十七日午後六時至十八日午後六時）

東の風 晴

十七日午前六時各地氣象概況 高氣壓は內陸地方にありて區々の風吹き中部の晨天其他は晴天なり

落語

猫久（四）

禽語樓小さん口演

熊「本當に今乃公が家で見たばかりで最う此處に知れるたア何うも惡事千里といふが乃公の所から此處までは半町位だから惡事千里の往けがけに補所にも配達して往つたんだ

親「マア此方に這入つて話しなさい一体何ういふ譯なんだい

熊「何ういふ譯だつて親方乃公が呆然家に居べてたスルト路次の方から駈けて來る奴があるから何んだと思つて見ると親方猫だよ平常猫の面は柔和だが其時の面ア怖はかつた

[illegible]

親「ヘエー

熊「怒りや猫の眼だから色々になるかも知れねへが口は耳まで割けて火焔を吐いた

親「大變怒つたねへ

熊「何ういふだ思ふと今日といふ今日は満座の中で恥辱を搔いたとか馬鹿にされたとかだから先の奴を殺すか御方が殺されるか命の遣取をするんだといふ時の聲といひ姿といひ實に怖かつたぜ

親「ヘエー神さんは吃驚りしましたらう

熊「所が神さんは少しも吃驚りしない

親「何んだつて

熊「何んだつてかんだつて神さんは何んとも思はず落付拂つて簞笥の抽斗から脇差を出して亭主に渡すかと思ふと神棚の前にピツタリ座つて三遍ばかり脇差を頂いて亭主に渡してやつだが親方餘程可笑しいおやねへか

親「亭主が喧嘩をした時に嚊アが脇差を渡すといふ話はないなア併し猫といふ字名を取る位だから嚊アも猫見たやうな膽があるんだと見へるなア

熊「何うも向ふ前でグタ〳〵笑つちや惡りいと思つたが親方可笑かつたぜ

茲に髪結床の親方とガラ熊と話をして居ると隅の方に年の頃五十六七といふ品の好い士族体の老人が兩眼を閉ぢて髪結床の後ろに倚掛つて寢て居たが眼を明いて只今這入つて來たガラ熊の方に眼を注ぎまして

士「オイ此りや

親「ヘエ

士「今此處に這入つて來なすつた若い人

熊「ヘエ

士「何にかれ前一寸此處に來て呉れんか

熊「ヘエ

士「た前一寸此處に來て呉れんか

熊「小哥でげすか

士「一寸承りたいことがあるからノー

熊「親方彼の御士族さん見たやうな老人さんは何處の人ですへ

親「俺も知らない今日始めてのれ客さんで

熊「旦那何御用で

士「其處ではれ話が出來ん御苦勞ながら一寸此處まで來て下さらんか

興味ある分配法　一人も當らぬ人なし

購買會の設立

簡便にして有益の方法

第一回入會者（三千口限）募集

●本會の目的　消費者自ら同盟して商店と特約を結び日用品を廉價に買入れんとするものにして總ての事務は本會にて取扱ふにより會員は極めて便利にして有益なるものなり

●會員は　一口分の會費として金三十錢を拂込ある毎に五錢づゝに刻みある特約券金額壹圓の物を御渡すべし

●特約券は　特約店にて現金を以て買物の節金額の一割づゝ通用すべきものにして假令は金五十錢買物の節は正金四十五錢に特約券一枚を添へ使用せらるゝが如し一回に五十錢以下買物の節は特約券一枚は買入金高の一割に相當するものとす又特約券のみにて通用せず且三ヶ月を過ぎたる時は無效となる

●[illegible]　會員は毎會費拂込毎に七拾錢づゝの利益となるべきものにて且福引利益

●會費は　其の使途を本會へ一任せられたるものにして本會は特約店より供給物品の廉價と割引超過との差金を塡補するの外殘金は總て本會の經費に充て終るものにして若し本會の收支計算に於て欠損を生じたる場合有りと雖も會員にして迷惑を與へざるものにて會費の徵收に關しては本會目的の事務を取扱ふの外會員に對し何等の義務責任を負擔せざるものとす

●會員は　入會後三日以内なれば何時にても退會する事を得るものにして其場合には本會より交付の書類を返付し本會より會費の內金二十五錢を返還するものとす

●入會希望者は　前各項承諾の上來會せらるゝこと（はがき）にて御知らせあらば特約券並に福引券等を持參す

●第一回申込期日は　來る十二月五日迄とす

寄贈品壹千圓代無進呈

寄贈品福引目録（三千口に對し左の通　一人も當らぬ人なし）

等級	總價額	品名並ニ寄贈店名	當籤人員
一等	四拾圓	廿圓呉服切手一枚宛（特約店合同寄贈）	二人
二等	四拾圓	清酒金露大樽一樽宛（同上）	二人
三等	六拾圓	婦人持銀側懷中時計一個宛（同上）	六人
四等	三拾圓	清酒三升券一枚宛（同上）	廿人
五等	三拾圓	高尚信玄袋一個宛（同上）	廿人
六等	五拾圓	莫大小シャツ一枚宛（同上）	五十人
七等	五十圓	上等手袋一對宛（同上）	百人
八等（特約店合同寄贈）	七百圓	甲　上等石鹼二個壹函宛（價廿五錢）	二千人
		乙　紳士用御名刺百枚宛（價廿五錢）	八百人
合計		價額金壹千圓	三千人

寄贈品の見本は各寄贈店に陳列しあり五六七八等品の一部は當會事務所に陳列しあり就て御覽下されたし

當會特約店より御賛成御入會下さる會員各位の御厚意に酬ひん爲め右の通りの寄贈品ありたるを以て當會は福引券により是を分配すべし即ち其福引方法は

一、福引券は　會費金參十錢御拂込の節一圓の特約券を御渡し申すと同時番號入福引券一枚を進呈すべし

二、抽籤は　十二月九日午前九時より當組合事務所に於て最も公平に實行す當日何人も御來觀御隨意のこと御來觀會員の內より五名以上の立會人を求め一等より順次抽籤す

三、發表は　一、二、三、等の當籤者は直ちに新聞紙上を以てし其他は當會事務所並に各特約店に揭示すべし

四、物品は　十二月十日より十五日迄の間に於て福引券引替に御渡申すべし若し御受取りなき時は當方より配達す其場合には配達賃　錢御支拂下されたし八等當籤の向へは甲、乙何れか御希望の者一品差上げ申すべし

明治四十一年十一月

京城南山町三丁目日本人倶樂部前

京城購買組合

▲木炭荷着▼

今般開城、岑城、南川、新幕、炭各種製造元より數萬の木炭を買占め尚又各地へは店員を派し品質量目等を診味被致候に付尤も安全なる品を特別廉價にて御小賣とも精々勉强致し御注文に應ずべく候間續々御用命被下度奉願上候

尚御賣は貨車南大門驛到着の節最も薄利にて御相談に可應候

新炭石炭御小賣商　京城鐘町三丁目　今福商會

同開城出張所　今福商會

船來日本品直輸入大販賣

京城支那領事館通

清韓洋行

電話四九四番

開業廣告

よろづ**染物**

洗はり湯のし上繪紋其他御染物一切御好に應す

京城旭町一丁目

山縣染工場

電話[illegible]八番

熟誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）

辯護士　岡田榮

京城旭町一丁目百拾八番戶

（電話三九八番）

諸官公署御用達

副業　和洋酒、味噌、醬油、烟草、罐詰

薪、炭（木炭石炭）其他日用品各種

名刺、葉書、其他印刷物鮮明迅速調製

韓國仁川港新町二丁目（朝日湯前）

吉備商會

電話三一七番

高等御下宿開業御披露

京城大和町一丁目（日の出橋東詰）

大和館

木炭

御小賣　諸官衙御用達

京城長谷川町一丁目

小島商店

（電話架設中）

◉刻煙草景品附大賣出し

東洋烟草會社製刻烟草發賣御披露トシテ來ル十一月一日ヨリ十一月三十日迄向一ヶ月間景品附大賣出シ可仕候間陸續御購求之程御願申上候

追テ景品ハ即時御渡シ可申候（五十錢毎ニ景品券一枚宛差上可申候）

◉景品目錄左之通

一等	船來白毛布（一枚續）一組代價廿五圓	一本
二等	蒲團綿十貫目代價十八圓	一本
三等	最新流行婦人用肩掛一枚宛代價七圓	三本
四等	最新流行珠子の首卷一枚宛代價五圓	五本
五等	船來皮手袋一双宛代價二圓五十錢	十本

六等ヨリ五十等マデ洋服・東京双子・大島絣・メリヤスシャツ・手袋・首卷各一品其他空くじなし

京城特約店大賣所

綿烟草雜貨商　京城永樂町二丁目　**宮松太郎商店**

雜貨小賣御　京城永樂町三丁目　**田中莊平商店**

壽司御料理　すき燒

蒸すし賣出し

從前の通り大勉强仕候間賑々敷御來光被成下度候

明治町一丁目

松善

嶄新有益ナル燃料

本品は長門[illegible]炭坑産[illegible]炭現時德山海軍省煉炭所に於て蒸汽器械を以て壓搾せし煉炭なり

機關燃料御用品として

特色　火力は普通石炭の比にあらず

煙少にして人畜に及ぼすの害及び建物裝飾品等汚瀆せしむる憂なく溫爐燃料室內暖爐其他炊事向として[illegible]

無煙炭成分[illegible]

周防國德山町

谷口無煙煉炭工場

韓國一手販賣　韓國京城大平町二丁目　**神田組**

京城特約店　韓國京城南大門通二丁目　**巴商會**

（電話三〇六番）

統監府御用

諸官衙入力車

荷物荷造及運搬

伊藤組

營業　京城曙町（電話七三番）

本店　同本町三丁目（電話四〇番）

諸印刷　名刺　ハガキ

京城本町通り

仁川活版支店

易斷鑑相及教授

商館　黃文館

三一館

近は來舘遠は郵便にて

日本郵船株式會社

仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通　**郡司回漕會**　電話二九番

城南大門通　**巴商店**　電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行　山東丸　十一月廿日後三時出

●大連、大沽、牛莊行　高砂丸　十二月八日後一時出

山東丸　十二月八日前五時出

●大連、大沽、牛莊行　酒田丸　十一月十九日後一時出

●釜山出帆、元山清津、浦鹽行　立神丸　十二月二日

●新潟丸　月日正午　大連行

御注意　御乘船ノ際ハ碇關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ[illegible]

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金[illegible]▲[illegible]

●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢[illegible]

發行兼編輯人　秋山忠三郎

印刷人　高木久太郎

發行所　京城新聞社